

のぞましい家庭教育のしおり

～心に残る、親子の触れ合い～

園の子どもたちと出かける遠足の朝のことです。子どもたちは、にこにこしながら重そうなリュックサックを背負って登園すると、「ママがお弁当作ってくれたんだよ」と声を弾ませながらうれしそうに話しにきてくれました。そんな子どもたちを見ると、自分の幼少の頃の遠足をいつも思い出します。

私は、遠足の前日からお弁当が一番楽しみにしており、母と一緒に手をつないで近所のスーパーに買い物に行きました。当日の朝、張り切っている私は、元気よく出かけました。しかし、弁当を食べる頃になってお腹が痛くなり、ほとんど食べられずに帰りました。母に食べられなかったことを話すと、「お腹が痛かったの？そりゃ、悲しかったねえ。食べたかったですよ。もう痛くない？」と、残ったお弁当を見ながらお腹をゆっくりさすってくれました。幼少期の記憶は、大人になるまでの時間の中で少しずつ薄れていきますが、このときのことは私の心に、そっと残っています。家族が気遣ってくれたり、心に寄り添う言葉をかけてくれたり、うれしかった出来事を自分のことのように喜んでくれたりした体験は、大人になっても心の中に温かく残っていくものだと思います。それは特別な事ではなく、日常の何気ない出来事の中にあるように思います。

園の子どもたちは、家庭での出来事を、うれしそうに話してくれます。お父さんと一緒にカブトムシを見つけに行ったりしたことや、お母さんと公園で遊んだことなど、いろいろなエピソードの中で一番心に残っていることを伝えてくれます。その時間は、親子でわくわくしながら過ごしているのだと思います。

子どもは、親と触れ合うことで温かい愛情を感じ、その経験がいずれ、つまずいたときに乗り越えていく力になると思います。もしも、子どものことで気にかかることがあれば、「大丈夫？」と声を掛けたり、抱きしめてあげてスキンシップをとったり、親子で手をつないで出かけ、同じ体験をしたりして子どもの記憶に残る触れ合いの時間をつくってみてはいかがでしょうか。



一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 **子ども相談センター** ～子どもに関する相談の総合的な窓口～

月～土曜：9時～17時(国民の祝日・年末年始を除く)

☎：62-6313 電話相談・来室相談

・刈谷市 **青少年電話相談** ☎：23-8888 月～金曜 9時～17時

・県教育相談 **こころの電話** ☎：052-261-9671 10時～22時

